

第41回かなえ医薬振興財団 助成金受賞者が決定！

かなえ医薬振興財団は、生命科学分野の斬新な研究の推進を図り、若手研究者を育成するために1970年に設立され、これまでに全国1,390名の研究者に研究助成金および海外留学助成金を提供してまいりました。第41回となる2012年度は、10月3日の選考委員会及び10月15日の理事会を経て、受賞者60名が決定されました。今年度は研究助成金が40名、海外留学助成金が15名、アジア・オセアニア交流研究助成金が5名で、総額7,100万円の助成金を交付します。(受賞者一覧は3-4頁参照)



10月3日開催の選考委員会の様子

○分野別の応募状況

◇研究助成

分野	応募数
臨床医学1	40
臨床医学2	30
臨床医学3	46
臨床医学4	84
基礎医学1	130
基礎医学2	125
合計	455

◇海外留学助成

分野	応募数
臨床医学1	18
臨床医学2	17
臨床医学3	16
臨床医学4	38
基礎医学1	42
基礎医学2	37
合計	168



10月15日開催の理事会の様子

◇アジア・オセアニア交流研究助成
 応募数 24
 応募数合計：647件

●選考委員長よりひとこと

選考委員長 寺本 明 (東京労災病院 院長)



今年度も昨年度に引き続き、応募領域を臨床医学の4分野、基礎領域の2分野とアジア・オセアニア交流研究の合計7分野で公募しました。

臨床医学分野は1)神経/脳、2)循環器、3)消化器/代謝・内分泌、4)呼吸器/免疫・アレルギー/血液/その他、基礎医学分野が1)癌/免疫/ゲノム/感染、2)神経/薬理/薬物動態/その他、アジア・オセアニア交流研究は老年医学/再生医学/感染症/疫学/医療機器/漢方/その他です。

今回の応募数も多く、全国の大学、研究所等100以上の施設からの応募があり、応募件数は研究助成455件、海外留学助成168件、アジア・オセアニア交流研究助成24件で、厳正な審査の結果、研究助成40名、海外留学助成15名、アジア・オセアニア交流研究助成5名が決定いたしました。研究助成が11.4倍、海外留学助成が11.2倍、アジア・オセアニア交流研究助成が4.8倍と、大変厳しい競争の中で受賞された先生方に、心よりお喜びを申し上げます。この受賞が今後の研究活動のより一層の励みとなり、生命科学分野の進歩発展にさらに貢献されることを期待しております。

●研究助成金受賞者 喜びの声



上村 卓也 (大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科学)

この度は第41回かなえ医薬振興財団助成金に採択していただき、誠に光栄に存じます。私はこれまで人工神経による末梢神経再建について研究を重ねてきました。現在、自家神経を犠牲にしなくて済む新しい末梢神経再建をめざして、人工神経に人工多能性幹細胞を組み合わせた再生医療の研究を行っております。今回の受賞を励みにしてより一層研究に精進し、ご期待に沿えるような研究成果を挙げられるよう努力していきたいと思います。

内藤 篤彦 (大阪大学大学院医学系研究科 心血管再生医学寄附講座)

この度は第41回かなえ医薬振興財団研究助成金に御採択いただき、非常に光栄に存じます。私はこれまで Wnt シグナルが心臓発生や循環器疾患に対しておよぼす影響に注目した研究を行なって参りました。近年、老化や成体幹細胞の制御など Wnt シグナルの新しい役割が明らかになってきています。今後も Wnt シグナルが心臓、血管において果たす役割について明らかにし、循環器疾患で苦しんでいる患者様に対する新規治療法へと発展させるべく精進していきたくて考えております。この度は誠にありがとうございました。



松坂 賢 (筑波大学 医学医療系 内分泌代謝・糖尿病内科)

この度は第41回かなえ医薬振興財団助成金を賜り、誠に光栄に存じます。わが国でも肥満や生活習慣病が増加の一途を辿っており、その病態解明と有効な予防法・治療法の開発が早急に求められています。私は、脂肪酸伸長酵素の解析から、脂肪酸の質の違いが生活習慣病にどのような影響を与えるのか研究を進めております。今回の受賞を励みとし、生活習慣病治療に役立てるような研究成果をご報告出来るよう、より一層努力いたします。

中村 幸男 (信州大学医学部付属病院 運動機能学講座)

このたびは第41回かなえ医学振興財団研究助成にご採択いただき、心より感謝申し上げます。私の主な研究興味は、骨軟骨系統疾患における原因遺伝子同定とその機能解明、であります。このたびの受賞研究では、網羅的遺伝子解析手法を用いて先天性の脊椎椎体異常の原因遺伝子を同定し遺伝子の機能解明を行うこと、であります。今回の受賞を励みに、日々精進し、臨床の現場に応用できるような研究を行っていきたくて思います。



荻 朋男 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 附属原爆後障害医療研究施設)

この度は第41回かなえ医薬振興財団助成金にご採択頂き、誠に光栄に存じます。ヌクレオチド除去修復機構 (NER) は DNA 損傷修復機構の1つですが、これがヒトにおいて遺伝的に欠損している場合、発がんや老化を伴う重篤な疾患の原因となります。近年、オゾン層破壊の悪化による有害な紫外線の影響で、皮膚がんが増加傾向にあります。今後、NERの詳細を研究することでがん化抑制に関わるメカニズムを解明すべく、より一層研究活動に精進する所存であります。

植村 健 (東京大学大学院医学系研究科 薬理学・分子神経生物学)

このたびは第41回かなえ医薬振興財団助成金に採択いただき、誠に光栄に存じます。私は脳のシナプス結合が形成される分子メカニズムを明らかにする研究に取り組んでいます。中枢シナプス形成の分子基盤を明らかにすることは、高次の精神・神経活動を司る脳神経回路の構築の基本原理の理解だけではなく、脳の発達障害の克服への礎になると期待されます。今回の受賞を励みにして、より一層研究活動に邁進したいと思います。



●海外留学助成金受賞者 喜びの声



立石 健祐 (横浜市立大学大学院医学研究科 脳神経外科学)

この度は、第41回かなえ医薬振興財団海外留学助成金を賜り、大変光栄に存じます。私はこれまで脳悪性腫瘍の代表的疾患である神経膠芽腫の治療耐性について、特に腫瘍内低酸化メカニズムを解明すべく、分子イメージングを駆使した研究を行なって参りました。留学後は、低酸化が及ぼす影響について分子遺伝学的な検討を行い、治療抵抗性メカニズムの解明につなげるべく最大限の努力を怠る次第です。今回の受賞を励みにして、より一層の精進を重ねる所存であります。

辻野 和之 (大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器・免疫アレルギー内科学)

この度は、第41回かなえ医薬振興財団海外留学助成に御採択いただき、大変光栄に存じます。私はこれまで難治性呼吸器疾患の分子メカニズムの解明に取り組んできました。

間質性肺炎、肺気腫、急性肺障害等は、その病態や発症メカニズムは明らかにされておらず、また有効な治療法も確立されていません。今回の受賞を励みにし、留学先では引き続きこれらの疾患の病態解明に少しでも寄与すべく、より一層の努力を重ねていきたくて思います。



●アジア・オセアニア交流研究助成金受賞者 喜びの声



杉山 大介 (九州大学大学院医学研究院 造血幹細胞分野)

この度は、第41回かなえ医薬振興財団アジア・オセアニア交流研究助成に採択して頂き、感謝致します。財団関係者・審査委員の先生・推薦者の片野光男研究院長・教室員を始め、多くの方々のご支援の賜物です。サラセミアは、世界でもっとも罹患率の高い遺伝性貧血症（一病型だけで世界人口の約7%、2.4億人が罹患）です。私たちがこれまで培って来た赤血球造血の知識・経験とiPSテクノロジーを融合し、サラセミア患者の重症度及びその予後を予測するバイオマーカーや新規治療薬の開発を目指します。マレーシア・Lai 博士、タイ・Svasti 博士と連携をとりながら本課題を推進し、社会に貢献出来るよう努力邁進致します。

●第41回(平成24年度)助成金受賞者 一覧

研究助成金

氏名	所属	研究課題
臨床医学1 ; 神経/脳		
上村 卓也	大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科学教室	人工多能性幹細胞と人工神経を併用した末梢神経の再生医療
下島 圭子	東京女子医科大学医学部 統合医科学研究所	疾患 iPS 細胞を用いたてんかん脳症の病態解析
出口 健太郎	岡山大学病院 脳神経内科学	軸索伸長関連因子発現コントロールによる新しい脳保護療法と神経再生医療
吉川 雄一郎	九州大学大学院医学研究院 脳神経外科	くも膜下出血後の脳血管攣縮発症における受容体活性調節メカニズムの解明
臨床医学2 ; 循環器		
内藤 篤彦	大阪大学大学院医学系研究科 心血管再生医学寄附講座	高血圧性動脈リモデリングにおけるマクロファージ由来 Clq と Wnt シグナル活性化が果たす役割の解明
柴田 玲	名古屋大学大学院医学系研究科 循環器内科学	心血管バイオマーカーとしての新規アディポサイトカイン「オメンチン」の意義
金森 寛充	岐阜大学大学院医学系研究科 病態情報解析医学	糖尿病心筋におけるオートファジーの病態解明と治療応用
臨床医学3 ; 消化器/代謝・内分泌		
松坂 賢	筑波大学 医学医療系 内分泌代謝・糖尿病内科	糖尿病の発症および進展における脂肪酸伸長酵素 Elovl6 の役割
根本 泰宏	東京医科歯科大学大学院 歯医学総合研究科 消化器病態学	炎症性腸疾患における腸炎惹起性 memory stem cell の同定
白川 純	横浜市立大学大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学	グルコキナーゼ活性化薬による膵β細胞小胞体ストレス誘導性アポトーシス制御機構の解明
安藤 幸滋	九州大学大学院 消化器・総合外科がん分子病態学講座	胃癌における腹膜播種発生の分子機序解明と腹膜播種に対する革新的治療法の開発
臨床医学4 ; 呼吸器/免疫・アレルギー/血液/その他		
中村 幸男	信州大学医学部附属病院 運動機能学講座	先天性脊椎椎体異常の原因遺伝子同定とその機能解明
河原 真大	京都大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科	ヒストンメチル化不均衡が白血病/骨髄異形成症候群の発症・維持に果たす役割
高橋 勇人	慶應義塾大学医学部 皮膚科学教室	天疱瘡自己抗原アスモグレイン3に対するT細胞末梢性免疫寛容機構の解析
七田 崇	慶應義塾大学医学部 微生物学免疫学教室	組織損傷と炎症におけるペルオキシレドキシンの機能解明
朝霧 成拳	京都大学医学研究科 創薬医学融合拠点 AK プロジェクト	骨破壊の制御を目指した骨吸収抑制シグナルの研究
高嶋 秀一郎	九州大学大学院医学研究院 病態修復内科学	皮膚の組織幹細胞に着目した皮膚移植片対宿主病の予防・治療法の開発
松岡 賢市	岡山大学病院 血液・腫瘍内科	制御性T細胞恒常性を標的とした低用量 IL-2 による移植免疫寛容導入法の開発
基礎医学1 ; 癌/免疫/ゲノム/感染		
荻 朋男	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 附属原爆後障害医療研究施設	スクレオチド除去修復機構破綻による皮膚癌および内臓がん誘発メカニズムの解明
平山 順	東京医科歯科大学難治疾患研究所 発生再生生物学分野	概日リズムの生体の DNA 損傷応答制御における役割
Wong Richard	金沢大学理工学域 自然システム学類 分子細胞生物学研究室	癌幹細胞発生・癌悪性化における核膜孔複合体によるエピジェネティック制御機構の解析
村田 貴之	愛知県がんセンター研究所 腫瘍ウイルス学部	ウイルスによる免疫系の制御とがん化
高村 史記	近畿大学医学部 免疫学教室	メモリー CD8T 細胞の肺粘膜移行調節機構の解明
伊集院 壮	神戸大学大学院医学研究科 質量分析総合センター	メタボロミクス解析による PI3 キナーゼシグナルを介したがん細胞特有な代謝機構の同定
太田 信哉	高知大学医学部 先端医療学推進センター	多次元プロテオミクスを利用した分裂期を制御する癌原因遺伝子の探索とその機能の決定
小澤 龍彦	富山大学大学院医学薬学研究部 免疫学講座	関節リウマチ由来抗 CCP 抗体の単離と機能解析
笹井 美和	大阪大学微生物病研究所 感染病態分野	形質様樹状細胞における I 型インターフェロン産生機構の解明
荒木 靖人	埼玉医科大学医学部 リウマチ膠原病科	エピゲノムと転写因子の観点からの CD8 陽性 T 細胞記憶の統合的理解
野中 太一郎	京都大学大学院医学研究科 免疫細胞生物学分野	皮膚・頭頸部癌の免疫監視からの回避機構に関する研究
基礎医学2 ; 神経/薬理/薬物動態/その他		
植村 健	東京大学大学院医学系研究科 分子神経生物学	シナプス形成を担う細胞内シグナル伝達機構の解明
久保田 義顕	慶應義塾大学医学部 総合医科学研究センター	神経網膜における可溶性 Vegf2 の機能の解明
大寺 秀典	九州大学大学院医学研究院 分子生命科学系部門 性差生物学講座	哺乳動物ミトコンドリア分裂制御機構と関連分子の同定
山崎 大樹	京都大学 学際融合教育研究推進センター 生理化学研究ユニット	小胞体カリウムチャネルと循環器系筋細胞機能
桑子 賢一郎	慶應義塾大学医学部 生理学教室	小脳系神経回路における特異的シナプス結合の分子機構
升井 伸治	京都大学 iPS 細胞研究所 初期化機構研究部門・升井研究室	転写因子の組み合わせによる分化制御機構の解析

矢木 宏和	名古屋大学大学院薬学研究科 生命分子構造学分野	糖鎖とタンパク質の特定の組み合わせによって制御される神経幹細胞の分化制御機構の解明
荒川 聡子	東京医科歯科大学難治疾患研究所 病態細胞生物学	新規オートファジーの変調による血球貪食症候群の病態解明
眞部 孝幸	藤田保健衛生大学総合医科学研究所 遺伝子発現機構学部門	新規神経系細胞分化調節因子としての hnRNPA1 に着目した統合失調症発症のメカニズムの解明
味八木 茂	広島大学病院 再生医療部	Heme oxygenase-1 誘導剤による変形性関節症治療とそのメカニズムの解明
中嶋 洋行	国立循環器病研究センター 研究所 細胞生物学部	機能的血管再生に向けた血管内腔形成機構の解析

海外留学助成金

氏名	申請時所属 / 留学先	研究課題
臨床医学 1 ; 神経 / 脳		
木下 雅史	金沢大学 脳神経外科 / Department of neurosurgery, Institute for Neurosciences of Montpellier	ブローカ言語中枢 - 上前頭回連絡線維の機能解明
立石 健祐	横浜市立大学大学院医学研究科 脳神経外科 / Department of neurosurgery, Massachusetts General Hospital/ Harvard Medical School	神経膠芽腫に対する治療抵抗性メカニズム解明のための遺伝子発現解析及び分子イメージングの研究
臨床医学 2 ; 循環器		
原 哲也	Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School Cardiovascular Research Center	フィブリンの分子イメージングを用いたステント血栓症の予測方法の確立
鎌田 創吉	大阪大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学 / Experimental Cardiology, University of Gissen, Max-Plank Institute	iPS 細胞移植を応用した重症心不全治療の開発
臨床医学 3 ; 消化器 / 代謝・内分泌		
駒場 大峰	東海大学医学部内科学系 腎内分泌代謝内科 / Harvard School of Dental Medicine	慢性腎臓病の病態生理における FGF23/Klotho 系の役割
臨床医学 4 ; 呼吸器 / 免疫・アレルギー / 血液 / その他		
辻野 和之	大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器・免疫アレルギー内科 / Lung Biology Center, Department of Medicine, University of California	急性肺障害における $\alpha v \beta 8$ インテグリンを介した IL-17 の役割解明
藤田 浩二	Mayo Clinic, Division of Endocrinology	ヒト骨芽細胞抽出法の開発とその臨床応用
入山 高行	東京大学医学部附属病院 女性診療科産科 / The University of Texas Medical School at Houston	妊娠高血圧腎症の発症機序の解明に向けた基礎的研究
基礎医学 1 ; 癌 / 免疫 / ゲノム / 感染		
三好 知一郎	University of Michigan Medical School, Department of Human Genetics, Dr. John V. Moran lab.	哺乳類レトロトランスポゾン LINE-1 のゲノム転移機構の解明
岩崎 正治	The Scripps Research Institute, Immunology and Microbial Science	ウイルス持続感染に導く宿主因子の同定
寒原 裕登	大阪大学微生物病研究所 分子ウイルス分野 / Case Western Reserve University, Center for RNA Molecular Biology	腫瘍形成に関与する lncRNA の分子メカニズムの解明
的場 章悟	理化学研究所 バイオリソースセンター 遺伝工学基盤技術室 / Howard Hughes Medical Institute, Children's Hospital in Boston	哺乳類卵子におけるエピゲノム初期化メカニズムの解明
基礎医学 2 ; 神経 / 薬理 / 薬物動態 / その他		
羽鳥 恵	The Salk Institute for Biological Studies Regulatory Biology Laboratory	概日時計の光応答を調節するコンパウンドの網羅的探索
鈴木 小由里	浜松医科大学医学部 分子生物学講座 / Center for Biomedical Research, The Queen's Medical Center, University of Hawaii	細胞障害および神経炎症に対する新規 PET トレーサーの同定
佐藤 千尋	Washington University School of Medicine, Department of Genetics	軸索変性を制御する新規キナーゼの網羅的探索

アジア・オセアニア交流研究助成金

氏名	所属	研究課題
アジア・オセアニア交流研究 ; 老年医学 / 再生医学 / 感染症 / 疫学 / 医療機器 / 漢方 / その他		
杉山 大介	九州大学大学院医学研究院 先端医療医学部門 先端医療医学講座 造血幹細胞分野	iPS 細胞を応用した遺伝性貧血症・サラセミアの重症度規定因子同定
高槻 光寿	長崎大学大学院 移植・消化器外科	カザフスタンにおける生体肝移植への技術支援と学術交流
安部 博史	宮崎大学医学部附属病院 精神科	生理活性を有するマレーシア産植物を利用した抗うつ薬の創製研究
山中 章弘	名古屋大学環境医学研究所 神経系分野 2	光遺伝学を用いた行動発現と自律神経機能調節の統合的解明
国定 充	神戸大学大学院医学研究科 皮膚科学分野	皮膚における紫外線損傷応答に対するスピルリナの影響

発行

公益財団法人かなえ医薬振興財団 事務局

〒163-1488

東京都新宿区西新宿 3-20-2 サノフィ株式会社内

Tel : 03-6301-3090 FAX : 03-6301-3094

E-mail : kanae.zaidan@sanofi.com

URL : <http://www.kanae-zaidan.com/>

☆ご協力お願いします

このニュースレターは、歴代受賞者及び応募関連領域の教室宛を中心に約 2500 部発行しております。

送付先のご所属等に変更がございましたら、登録情報を更新いたします。お手数ですが e-mail 等でご連絡下さいますよう宜しくお願い申し上げます。